



夏の訪れを知らせる祭り囃子が、軽快なリズムで鳴り響く。今回はお囃子をこよなく愛す『分清水高根下座連』を紹介します。

お祭りに無くてはならないお囃子。町の祇園祭では、以前は小見川の清水芸座連に依頼し、高根の山車に乗ってもらっていたそうです。昭和45年ごろに、自分たちでお囃子をやろうと、当初は「笛の会」の名で活動を開始。小見川の清水芸座連へ師事し、平成10年には地元の協力もあって独立し『分清水高根下座連』として活動を開始しました。

掏鐘・横笛・小鼓・大鼓・小太鼓・大太鼓の演奏が始まると自然に心がウキウキ。「早くお祭りが来ないかなあ」という気分になります。目を閉

サークル CIRCLE ZUKAN 鑑

第59回

下座連サークル わけきよみずたかねげざれん 『分清水高根下座連』

- ①活動歴 40年
- ②年齢層 20代～60代の男女
- ③活動場所 親社大神（高根権現様）の会館
- ④活動時間 毎週水曜日（1月～3月休み）
20:00～22:00
- ⑤代表者 平山邦雄（ひらやまくに）
- ⑥連絡先 ☎76-5084

じて自分の音を耳と体で確かめながら練習をしている姿は、まさに本番さながらです。

練習は毎週水曜日。1月から3月までは休みとなります。楽譜のようなものを見て演奏しますが、基本は「見る、聞く」そして練習あるのみ。お囃子を引き立てる抑揚のある掛け声は曲のつなぎ役となり、楽器を演奏する頼りとなります。

町の祇園祭はもちろん、佐原の夏と秋の祭りや小見川の祭りにも参加。町のイベントや結婚式でも披露し盛り上げます。「昔からの曲を継承するのは難しいですが、若い人たちにもこの下座連を受け継いでいってほしい」と話す代表の平山さん。ぜひ一度、見学にお越しください。



編集 後記

★スペインの優勝で幕を閉じたサッカーのワールドカップ。日本代表も戦前の不調がうそのような活躍で、見事決勝トーナメント進出を果たしました。目標のベスト4には届きませんでした。その健闘に心から拍手を送りたいと思います★好試合が続いた一方で、この大会では審判の微妙なジャッジが印象に残りました。日本では大相撲やプロ野球などでビデオ判定が導入されていますが、ワールドカップやオリンピックなどの国際大会では、ほとんどが審判の目に委ねられています★選手たちが積み重ねてきた努力を無駄にすることのないよう、より正確なジャッジを期待したいものです。

★7月11日の参議院議員選挙も終わり、たまった疲れもかなり取れました。でも、夜遅くまでの開票は年を取るたびに体に応えます★選挙の期日前投票を手伝っていたときのこと。お年寄りの女性が家族に付き添われて投票会場へ。受け付けを済ませ一人ですべてのとき家族の方がカメラを出して「ちよつと止まって！100歳の誕生日の記念に」と、おばあさんをパシャリ★ひゃっ100歳!!みんながびっくりしているのをよそに無事に投票終了。笑顔で帰って行く姿を見ると、ちよつとこのこと「疲れたあ」なんて言っていられないですね。